

令和5年度第1回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

1 開催日時

令和6年1月30日（火）午後2時から午後5時まで

2 会場

徳島県南部総合県民局 美波庁舎 大会議室

※WEB会議システム併用

3 出席者

(1) 政策総合会議委員

① 地域住民代表委員 17名（2名欠席）

青木委員 石本委員 井上委員 岩崎委員 大地委員 岸委員 小林委員 坂本委員(WEB)
繁友委員 轟委員 西原委員 橋本委員 濱崎委員 林委員 平井委員
町田委員 宮崎委員

② 県委員 1名

吉岡南部総合県民局副局長

(2) 管内市町長、副町長 4名

西田阿南市副市長(WEB) 新居那賀町副町長 柘富牟岐町長 磯野美波町副町長
横海陽町副町長

4 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

令和4年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について
徳島県南部圏域振興計画見直し（素案）について

(3) 閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 令和5年度第1回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料1 令和4年度南部圏域課題解決プランの実施結果及び評価（概要）
- ・ 資料2 令和4年度南部圏域課題解決プランの実施結果及び評価
- ・ 資料3 令和5年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会報告
- ・ 資料4 「徳島県南部圏域振興計画」の策定について
- ・ 資料5 「徳島県南部圏域振興計画」（素案）

6 議事概要

[司会]

ただ今から、令和5年度第1回徳島県南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、18名の地域住民代表委員の皆様及び管内市町の副市長、町長、副町長様に御出席いただいております。今後の議事進行は会議設置要綱第5条第3項の規定により、吉岡南部総合県民局副局長が行います。

[副局長]

南部総合県民局 副局長の吉岡でございます。本日は、委員の皆様方におかれましては、お忙しいところ、御出席をいただき、誠にありがとうございます。さて、南部総合県民局におきましては地域の皆様と連携・協働しながら、各種の取組みを推進しているところでございます。

本日の議題につきましては、まずはじめに、昨年11月に書面開催しました計画推進評価部会において、「令和4年度南部圏域課題解決プランの実施結果」の評価をいただいておりますので、その結果を石田計画推進評価部会長からご報告をいただきます。

次に、新たな「徳島県南部圏域振興計画」（素案）について議題とさせていただきます。

現在、徳島県全体の新たな指針を示した「徳島県新未来創生総合計画」の策定が進められており、南部総合県民局におきましては、県計画と一体的に進められるよう、南部圏域の皆様と共に、様々な取組を推進するための指針となる計画の策定を進めております。

本日は、その「たたき台」となる「素案」について、御説明をさせていただきたいと考えております。その後、委員の皆様から「素案」に対するご意見や、その他「南部圏域の振興」に関する御意見・ご提言を頂くとともに、本日御出席の管内の各市町の皆様から御発言を頂き、意見交換を図りたいと思っておりますので、円滑な議事進行に御協力よろしく申し上げます。

[副局長]

それでは、議事に入ります。議題1の「令和4年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について」石田部会長から御報告をお願いします。

[石田部会長]

はい、それでは報告させていただきます。石田です。どうぞよろしくお願いいたします。資料3を御覧ください。資料3に評価部会における評価の結果をまとめてございます。資料3評価結果についてこちらを中心に御説明させていただきます。24のプランについて評価を実施したところ、その結果は、「順調」が15プラン、「要注視」が6プラン、「要改善」が3プランとなりました。委員の皆さんからいただいた主な意見を紹介させていただきます。プラン6に関しては、「南部圏域ならではの特色を活かした観光コンテンツを発掘するため、住民と行政が意見を交わす機会を設けてはどうか。」プラン21については、「移住者の数値について5年未満で他に移っている人もいるので、「定住」している人がどれぐらいいるのか、数値があっても良いのではないか。」「全体的に、すべての業種で働き手の確保が最優先。それ以外に道なし。人口減少が甚だしく、国県各自が頑張らなくては町がなくなる。」このような意見がございました。評価部会からの報告は以上でございます。

[副局長]

御報告ありがとうございました。この度評価を通じて評価委員の皆様からいただきました御意見や御提言につきましては、新たな「南部圏域振興計画」をはじめ、今後の各種政策にしっかりと反映させて参りたいと思います。石田部会長におかれましては、今後とも南部圏域の発展のため、お力添え賜りますようよろしくお願いいたします。なお、石田部会長におかれましては、所用のためここで退席されます。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

次に、議題2について、「徳島県南部圏域振興計画」素案について事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料4、資料5により説明)

[吉岡副局長]

ありがとうございました。それでは、ただいま事務局から説明のありました「徳島県南部圏域振興計画」素案についての御意見や御質問、その他、圏域の振興全般に対する御意見・御提言をお聞きしてまいりたいと思います。まず、会場の皆様からお伺いし、続いてA委員にお伺いできればと存じます。全員に御発言いただきたいので、お1人あたり3分程度でお願いいたします。

それでは、B委員からお願いいたします。

[B委員]

Bでございます。よろしくお願いいたします。それでは意見を述べさせていただきます。2点ございます。まず1点目でございますが、もう皆さん知っての通り1月1日、能登半島地震が起きた次第でございます。やはり南部圏域においても、この素案の5ページ、安心度アップ等の視点でいきますと、実は私は阿南防災士の会副会長、そして明日から実はDWATチームで、石川県へ2週間派遣で行かせていただきます。その観点からも、南部圏域はこの十年でソフト面はだいぶ僕は進んできていると、ほんとに南部総合県民局の県の皆様、保健所の皆様、それに携わる防災の皆様のおかげで、僕はこの十年、しっかりと訓練等に参加してしていると、ソフト面はだいぶ進んできてるんじゃないかと感じております。ただ、ハード面ですね。前々回の審議会の時にも言わせていただいたんですが、避難所である学校の体育館、また県の体育館等において冷暖房ね、これは環境をですね。これはもう東日本大震災以降ですね。これは日本の国全体の防災の観点なんですけど、やはり変わってないんです。変わってない。能登半島地震のニュース見てみてください。

体育館にみんな集まってね、これ十数年変わってないような防災なんです。やはりですね、もしいざ発災したらこの南部圏域やはり冷暖房、今寒いですよ。もちろん能登も寒いと思います。冷暖房の設備が必要だと思っております。もちろん予算あるの分かっています。だけど、いるものはいると。もうだいぶ年とってきたんでね、はっきり言うようになってきましたので。その観点は県はじめ市町村、また阿南市もそうなんですけども、やっぱりいるものはいるので。移動式でもいいんです。で、それを訓練に使いながら、ポジション・ポジションでやっていくような考え方も構いません。全部設置するとそこの設備だけになるので。ハード面の充実を訴えさせていただきます。

もう1点でございます。11ページの魅力度アップでございます。今日もバッチをつけているとおりでですね。これも絡んでるんですけども、大阪関西万博ですね。いろんな中止が言われると思いますが、やっぱり契機になるんです。世界の注目であり、国内の注目、外国人の方の注目が集まる。その時に徳島県まるごと支度だと、まるごとパピリオンだと言われてございます。是非とも県南部ね。海・山・川、やっぱサーフィンとかね。僕はもうずっと推しているんですけども、そういった観点をもう

少しね、県民目線で見える形で。もちろんやっていただいているのは十分に分かっています。けども来客数がアップしないというのは、それだけ外国人の方であろうが国内であろうが伝わっていないから来ないのだから、来るようにやらんとね。少し強く言いますが、その観点はここにお集まりの皆様方がしっかりと観光客誘致といった観点を発信していくべきだろうと、いうふうに考えてございます。今日はこの2点でよろしく願いいたします。以上でございます。

[副局長]

今回、各委員さんから御意見・ご要望をいただいたら、その都度、関係部局等からお返しさせていただいていく形で進めさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いします。

[地域創生防災部]

地域創生防災部長の小津と申します。どうぞよろしく願いいたします。まず5ページの避難所等における冷暖房施設の整備といった観点のご指摘だったかと思えます。現在、南部圏域では避難所が319箇所ございます。そのうち、小規模な例えば集会所とか、そういったところは冷房設備・暖房設備が比較的に進んでいると思っております。今課題となっているのは、能登半島地震でもそうですけども、体育館などの大規模施設でございます。100人以上入るような大規模な施設は南部圏域に100施設ございますが、そのうち冷暖房が完備されているのが47施設といったところで、まだまだこれからの状況だと思っております。B委員おっしゃっていただいたようにコストがかかるお話でもあります。それに管理者の、例えば県ですと高等学校とか、市町の皆さんにとってみれば小学校とかそういった広いところがございますので、避難所の機能向上という意味で引き続き皆様と相談しながら、能登の課題などを踏まえながら対応してまいりたいと考えております。

もう一つ、魅力度アップについて12ページを御覧下さい。この地域、非常に豊かなんですね。自然環境とか魅力ある資源がいっぱいあるといったお話。一方で、まだあんまり知られていない、といったお話だったかと思えます。そういった認識は我々も持っております。それで12ページ、政策の方向性の中の戦略的なプロモーション活動の展開で、例えば、データ分析に基づく効果的な魅力発信。それから著名人の活用等の戦略的なプロモーション。それから、積極セールスとかメディアの活用を位置づけながら、地域の皆さんの御協力もいただきながら、戦略的なPR活動を実施してまいりますので、引き続きの御協力をどうぞよろしく願いします。

[B委員]

どうもありがとうございました。引き続き継続していただければと思います。

[副局長]

続きましてC委員お願いいたします。

[C委員]

Cです。6ページの、やはり自然災害を迎え撃つには、高速道路とは言いませんけれども高規格道路の強靱化がやはりその後の復旧・復興に役立つと思うんですけど、3行目、(2)の3行目かな。阿南安芸自動車道の整備促進を図ります、と書いていただいているんですけど、これじゃなくても。目の前にきて、なかなか命の道路、海部道路、私も活動し始めて15年目になるんですけど、何にも。全然。ここにも表にも書いてくれとらへんし。やはりここを、整備促進を図りますじゃなくて、早期着手に変えていただければありがたいです。文言でもやはり見た目ですごく違うと思えます。それが1点。

もう1点、8ページの健康づくりの分について、「地域医療を守る会」から申しますと、もう昨今、医師の働き方改革で状況が変わってきますので、そうなれば医師の確保をしっかりしないと。今、県立海部病院もつつ一杯で動いておるとお思います。それで、働き方改善にはなかなか遠いものがあると思いますので、人材育成に取り組めます、じゃなくて、まだまだ医師確保がいるんです。そうしないと県南部の方では本当に災害が起きる。また、今でも先生方苦勞しておりますので、その文言を書いていただいて、それを忠実に実行していただければありがたいかなとお思います。

次は12ページなんですけれど、先日、28日にですね、台湾から教育旅行で民泊に来ました。で、やはり道路が悪いので、もう30分も40分も遅れる。そうしたら、子供たちと英語と台湾語と漢字でやり取りしたのが、もう本当に夜遅くなりました。そういうふうにして住民も頑張っておりますけど、行政の方もどうして来ないのか、どのようにしたらいいのか、をもっと議論していかないと。なかなか、上でこうやっていただいても、下の受け入れ先もお年を召しておりますので、そういうところまで教えて、やっていただかないといけないかなとお思います。

最後に14ページで「攻めの農林水産業の展開」とありますけど、磯焼けがどこ見ても書いてないんです。ということは、天草もダメ。今まで有名だった出羽島の天草もダメ。それに伴い流れ子もダメ、というふうに。1年、2年では磯焼けは治りません。だから、専門家も交えてもう一度海を蘇らせないと、攻めの農林水産業、特に水産業の方はダメだと思っております。その4点です。

[県土整備部]

南部総合県民局県土整備部長をしております川口といいます。よろしくお願ひします。阿南安芸自動車道については、「桑野道路」、「福井道路」、「海部野根道路」で国が主体となって整備を進めています。このうち「桑野道路」、「福井道路」は工事着手済みですが、「海部野根道路」は工事未着手で、昨年度、全4地区で設計協議が完了し、現在、県も連携し、用地取得を進めているところです。海部インターチェンジ付近で埋蔵文化財の可能性のあるものが出てきているとの話もあり、関係者と連携して事業を進めていきたいと考えていますので、皆様の御理解・御協力をお願いします。

[保健福祉環境部]

保健環境福祉部の副部長をしております西田と申します。よろしくお願ひいたします。ただいま医師確保につきまして提言があったところでございます。徳島県の人口当たりの医師数につきましては、全国トップクラスということではあるんですけれども、現状では東部の方に偏在しているということ、そして医師の高齢化ということがありまして、県南部地域におきましては、医師不足の深刻な状況ということは私どもも認識しております。こうした状況を踏まえ、県全体の話ではありますけれども、寄附講座の開設でありますとか、地域枠の医師の養成など、地域医療でありますとかへき地医療の対策に取り組んでおるところでございます。今回の計画には”医師確保”という言葉自体は載ってはおりませんが、こうした医師不足の状況は地域にとって深刻な課題であり、我々も強い関心がございます。定期的に救急医療対策協議会をはじめ、医療に関する会議を南部の方でやられておりますので、可能な限り、そういった会議には出席するなどして、こうした地域の状況について伝えてまいりたいと考えております。今回、計画の記載につきましても、万代庁舎との役割分担などを考えながら、あらためて検討させていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

[地域創生防災部]

それでは12ページ、体験型教育旅行についてでございます。これもC委員さんはじめ地元の方が中心になって取り組まれており、誠に感謝申し上げます。少し数字的なものを申しますと、今年度つい

先日まででございますが、国内の中学校で7校、それと1月26日から27日に台湾の高等学校にあたる学校1校を受け入れ、644名の生徒さんが県南に来ていただいております。体験型教育旅行の発祥がどちらかという、まさにこの土地でスタートしたものでございますし、非常に大きなムーブであると認識しております。これからもC委員さんや地元で活躍されている方と連携しながら、引き続き振興を図ってまいりたいと思います。

[農林水産部]

失礼いたします。農林水産部長の伏谷と申します。御質問御意見ありがとうございます。ただいま、委員の方から磯焼けを原因とする天草の不漁であったり、流れ子が取れなくなっている等々の御意見をいただいております。磯焼けにつきましては、ご承知の通り、全国的な、地球全体の問題でもございまして、実際、県南部も含む、県沿岸の海水温が以前よりもかなり上がってきております。本来であれば、藻類が繁茂して、そこへ貝類・魚・伊勢海老等が集まってきて、非常に良好な漁場が形成され、今まで水産物が盛んに捕れていたものが全然捕れなくなっている状況は承知しております。そこで、県としましては各漁協さんの御意見等伺いながら、種苗の増殖のための放流であったり、あるいは海藻を食べる魚、例えばアイゴとかですね、そういった魚の未利用資源としての活用等について研究部門と一緒に考えて、いろんなアイデアを生みだしているところでございます。地球温暖化にかかる非常に大きな問題ではあるんですが、可能なところから一つ一つ、地元の要望もお伺いしながら取り組んでまいりたいと思いますので、何卒今後とも御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

[副局長]

それでは続きましてD委員にお願いいたします。

[D委員]

私がこちらに移住してきて、もうそろそろ10年になるんですけども、その中でやっぱり最初はもういろんなことがあって、いろいろ教えてもらって、すごく充実して、精力的にやってきてはいるんですけども。やはり今の時点になって人口が減少しているところがあるんですけども。活動をメインにされてきた方が引退の時期になってきているのと、あと団体ですね。今まで、精力的に活動してきている団体も縮小してきて、っていうのがすごい間近に感じてきて、やはりそこら辺で危機感を持っています。それで、観光客。私は観光メインでやっていますが、観光客はこれからどんどん増えてくると思っています。ニーズもあると思うんですけども、ただ、その受け入れ先がどうやって持続できるかっていうところが、これから重要になってくるかなと思っています。私も民泊受けたりとかもしているんですけども、民泊受入先が牟岐町もすごく減ってきていて。やっぱり体調の面だったりとかっていうのも聞いているんです。で、60代以上の方が受けているたりするんですけども、ただ若い人もやはり来て欲しいっていうのは事務局の方から聞いているんですけども、予算的な面でやっぱり負担がすごく大きくて6,000円少しにはなるんですけども。体験をさせて、食事を出して、送迎もしてっていうふうになると、やはり負担が大きいんですね。年配の方でタクシーで来られている方もいらっしゃいましたし。そういったところで住民の負担もすごく大きいんじゃないかな、っていうのがあるので。今は上の方で考えて、計画立てて、運営していただいているんですけども。民間の方がボランティアになりすぎない、っていうところが大事ではないかなと思っています。で、私たちもボランティアでやるのはすごく嬉しいんですけども、みんな、楽しんで帰ってくるっていうのはすごく嬉しいんですけども、いかに負担を軽減しながら続けていくかということ

ろが、これからすごく重要になってくるんじゃないかなと思うので、ここら辺はもうちょっと民間と話し合いながらやっていけたらな、と思っています。

次に、9ページなんですけれども、ボランティア活動の証明制度の表彰者数を増やしていくと書いていますけれども、そちらの証明制度のこの「みなみから届ける環づくり会議」のホームページを拝見したんですけれども、去年の活動が千年サンゴの保全活動が2回のみだったんですね。他の活動とかもやっているかもしれないんですけれども、どんな活動をしているんだろうって見たときに、それだけだと足りないのかなと思ったんです。で、こちらからも、取組としても千年サンゴが出てないので、他に民間で企業さんで環境活動をやっているところもたくさんあるので、そういったところとも連携しながら、高校生の子たちにどうやって豊かな自然環境がこれだけあるんだっていうところを見せていくか、関わっていくか、それで大事に思っていくか、っていうところはすごく大事になるので、そこら辺は連携していけるところではないかなと感じています。

次に、私が評価部会の意見で言わせてもらったんですけれども、やはり移住者も持続して移住して住み続けている方と、やっぱり牟岐町でも他町に行ったり、県外に引っ越してしまう人もたくさんいるので、そこら辺は注視していく必要があるのかなと感じています。以上です。

[地域創生防災部]

はい、ありがとうございます。16ページのところで言っていたような御意見を踏まえ、(1)「ひと」と「しごと」の好循環の2つ目の■において、「若者の定住やUターンを促進するため、地域で暮らす若者が継続的に意見交換を行います」、「多様な圏域の魅力を発信していきます」と記載しております。移住された方のその後の定住・定着が大きな課題でございますので、来ていただいた方がこちらで楽しく暮らせるよう、行政として意見交換を行う場などを提供できないか計画に位置づけ、しっかりと工夫してまいります。

[保健福祉環境部]

続きまして、ボランティア活動証明のことについて、御説明させていただきます。県民局発足以降、圏域内の市町や企業、教育機関等との協力体制の構築に努め、地域の皆様に御協力いただきながら、自然環境の保全を図っているところでございます。「みなみから届ける環づくり会議」につきましては、当方が事務局をしております、現在、19団体3名の方に会員として参加いただいております。只今お話がありましたように、ホームページの情報が不十分でございましたので、コロナ禍ということもありまして、活動が停滞したところもあろうかと思っております。この点はですね、しっかり情報発信できるように改善してまいりたいと思っております。

[副局長]

あと民泊のお話がありました。「南阿波よくばり体験推進協議会」で中心的にされている担当の方にも、何回もお話を伺っております、先ほど小津部長からも話がありましたが、体験型事業はこの地域が四国で一番に始めたんですよ。そうしているうちに、西部の方が勉強しに来て、向こうがなんか元気があるようなニュースが出てますけども。南部圏域は、本当に自然が豊かで誇りうる資源を持ってらるんですね。それを圏域外の人に体験してもらうのは大変有意義なことではございますが、受け入れを増やすためには民泊事業者を増やしていかなければならない。一方で民泊を提供していただいている方が高齢化してきており、そういった課題もお聞きしているところでございます。その中で、若い方にも民泊に入っていただくにはどうしていくのかとか、それから体験メニューをどうブラッシュアップしていくのかなど、いろいろ課題はあるんですけれども。そこは南部総合県民局と市町とも

ども一緒になりまして、しっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、また御理解と御協力、よろしくお願ひいたします。

では、続きまして、E委員お願ひいたします。

[E委員]

まず大前提として、安全で住みやすく温かい持続可能な地域の実現、とあるんですけれども、これをするためには、きちんとした事実の情報共有が必要じゃないかなと思います。やっぱり物事を考える時にベースとなる土台が一番必要なことだと思うんですね。それで言うと、まず一つ、健康っていうのが一番だと思います。健康じゃなければね、体の健康だけじゃなくて、その判断だったりとか考えることに関してもね。やはり健康というのは非常に重要。で、医療が足りないというよりも、病気を未然に防ぐ未病、っていうことの方が重要だと思いますし、もっと視野を広く見ないと全体的にいけないんじゃないかなと。大変申し上げにくいですが、日本国内だけじゃなくて今、世界がどういう状況なのかということも含めて。例えばたまたま昨日ニュースになっていた、アメリカのある州で除草剤のラウンドアップって、あちこちで使われている除草剤。あれが、もともとベトナム戦争での枯葉剤が元っていうのは有名な話なんですけれども、それがやっぱり癌になるっていうので、裁判でメーカー側に3,000ドル、日本円にして3,400億円の損害賠償とあってニュースが出てくると思うんです。でも、そういうのって日本だとメディアでも放送されないですし、もっと言うと日本のメディアって戦後の情報操作されたまんまの組織体系であるので、メディアの情報に右往左往されていては本質はつかめないかなと思います。そういった意味でも、今、各国の動きとしては、政治の腐敗や金融の悪いことだったりとか、医療健康面での利益を求めするために実際に良くないことをしていたとか、そういう悪だしをした上で政治や国民に対してどうするかという動きが全世界中でどんどん行われている中、日本は孤立している状態に感じるんですね。そういった状況の中で物事をちゃんと考えて進めるということが健康につながるのではないかなと。で、どの立場においても、やっぱり子供たちの未来を作るとというのが大人の一番の役割だと思います。大人たちが子供の未来のために本気で取り組む、そのためには大人の方がもっともっと勉強したりとか、本当にその事実を知っていくべきではないかなと思います。昨今で言うと、コロナの騒ぎとしても、結局、今、日本では報道されていないですけどワクチンの件とかも効果ありませんでした、実験の件もウソでした、とあってというのがオープンになってきていて。そういった事実を知ってる割合というのが、日本は1~2%と言われていています。一方で欧米では40~50%と言われていています。それぐらい事実を知らない中でいろんなことを決めていて、大きいこと小さいことを含めていう状態がまず危険ではないかな。なので、方向性だったりとか、こういったプランを決めるときに、まずみんなが現状の事実を知っていくっていうことから始めた方がいいんじゃないかなと思っております。なので各政策の方向性のところで、3分という時間の中では話し切れないぐらい疑問点だったりとか、これどうなんだろう?というのがすごく多いですね。何度も言うように、安全で住みやすっていうと、やっぱりその現状をきちんと把握して、それに対して、こういうふうを考えているっていうところに、安心・安全を感じたりとか。あとは、これだけ自然豊かな地域であるからこそ、その自然をより次の世代に維持するのではなくて、より良い状態にしていくっていうことが、必要なのではないかなとすごく思います。なかなか言いづらい内容だったりとか、知ったら驚くような事実っていうのもいっぱい出てきているんですけれども、本当にメディアがそういうのを取り扱わないので、なかなか市民に行き渡らない情報が。じゃあ、徳島県っていうネットワークだったりとか、そのコミュニティの中で、事実はどうなんだっていうことを出ししていくことから考えることが今一番必要んじゃないかなと。そうすることが、子どもたちの未来を作り、今を生活している我々の公約になってくるんじゃないかなとすごく思います。

[副局長]

E委員、いろいろとありがとうございます。委員おっしゃられたとおり、本当に大きなことのお話であり、大前提のお話だと思います。その中で、しっかりとその真贋、真実を見極めていかないといけない。健康だとか、子供のこと、この地域の将来のこと、自然のことだとか、そういったことを、今一度私ども立ち返りまして、この地域は本当にどうなんだというところをしっかりと皆さんにオープンさせていただいて。できることっていうのは、本当に限られたことかもしれませんが、皆様とそういう情報を共有して、同じ目線に立って、しっかりと一步一步進めていきたいと思っています。また、引き続き御助言・アイデア等々教えていただきまして、我々としましても、それを真摯に受け止めて、やることはしっかりとやっていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

[E委員]

あとはもう一つ。投票率がすごく低いじゃないですか。徳島だけじゃなく、日本全体で。やっぱりみんなが選挙に行くってところは政治の一步目だと思うんですね。なので、そこを作っていくってことがすごく大事ではないかなと思います。やっぱり若者が政治や行政に無関心な状況でいくらこのように立派な方々が総合計画を立てても若者に関心がなかったら難しい。実際にその現場で動いたりとか、未来の街を作るのってやっぱり若者たちなので。だから、もっと政治に関心を持って、もっと行政の方でも、いい意味でやりあたりとか、投票率が上がるようなことも、入れ込んで欲しいなあって思います。じゃないとすごく壁があって、何か大人たちが言ってること、で終わっちゃう気がするんですね。で、そうするとここに書いてある若者の育成だったりとかね。各パーツで書いてあるようなことっていうのが、やっぱり響かないと思うんですよ。なので、そこはすごく重要ポイントかなと思います。

[副局長]

ありがとうございました。続きましてF委員お願いいたします。

[F委員]

Fでございます。よろしく願いいたします。私の方からは2点お話させていただけたらと思っております。27ページの漁業就業者数を見ると令和2年度調査で止まっておりますけれども、県南部の数字を見ていただくと、県内の半分以上を占めております。で、とても重要な一次産業として水産業を考えていただいているんだな、というのを改めて感じた次第でございますが、農林水産業の持続可能な発展ということで13ページに記載していただいておりますけれども、成果指標を見させていただきますと、文言がついに「維持」と。さらに上を目指そうというものではなくてきているというところなんです。数字もすでに103億円から103億円っていうような。もう維持を目標にしているというところについては、正直仕方ないかなと感じております。農林水産業の新規就業者数も、2028年度に430人と書かれておりますけれども、漁業の方でどこまでこの430人の新規就業者、期待に応えられるかというところではありますが。漁業の方では新規の就業者を雇えない状況が確かにあるんですけれども、どうにか頑張っていきたいなと思います。ちなみに、こちらの430人っていうのは、新規ということで、人が減ってきている中で農林水産業の新規就業者数をこれだけ増やすというのはかなり至難の業かなと思います。厳しいと思いますが、ともに頑張っていけたらいいなと思っております。

もう1点は、安心度アップの戦略1のところなんです。防災士の資格取得数っていうのが1,200人を目指す、というところなんです。私の娘が海部高校に行かせていただいております、そちらで防災士の資格

を取らせていただきました。その時に海陽町さんの方から補助をいただいて資格を取得することができたんですね。意外と防災士って取得するまでに費用ってかかるんだなっていうイメージです。なので何か高校生だけじゃなくて、いろんな方に支援がいき届けばいいなと思っております。以上でございます。

[農林水産部]

F委員、大変ありがとうございました。御質問いただきましたのが、まず漁業就業者がこれだけ減ってる中、新規就業者の維持がどういう意味があるのかということだったと思います。実際、この計画書の冒頭にも書いておりますように、2040年には、特に海部郡、那賀町において顕著ですが、県南部の人口が半減するという試算が出ております。それで、農林水産業についても、人口減少と連動するような形で就業者数は半減してしまう。全体のパイが減少していくというのは、相当なてこ入れをしない限り厳しいのかなと思っております。そのような中、農林水産業をどのように盛り上げていくかということなんですが、まずこれまで通りやっておること、例えば、徳島科学技術高等学校、水産業に関するコースがございます。そこの生徒さんをこの県南部の漁業に結びつけるように、こちらの地域で漁協さんの御協力もいただきながら、いろんな体験研修等を実施して漁業の素晴らしさを伝えているところでございます。それと漁業アカデミーで毎年、何名か一年間かけて漁業を学んでいただいておりますが、こちらでも県南部の方へ直近では3名お越しいただいていると記憶しております。新たな人材を確保をしていくっていうのは、まずベースにあるんですが、一方で、漁業自体を盛り上げていくために、少ない人数でも効率よく漁業ができていくかということも重要です。例えば水産研究課ではかねてからリアルタイム水質の情報提供システムの研究をしております、既に実装しております。これは多くの箇所水温や塩分濃度をチェックして、それらのデータを情報収集した上でリアルタイムでネットで提供できるっていう仕組みで、これにつきましては昨年3月より和歌山との間往復してます南海フェリーがこの航路の途中で採水し、水温を測って、それも合わせて複層的な水温予想ができたりする。これを、漁業者の方々に提供して無駄のない効率的な漁業ができるように。これは一例ですけど、そんな活動も実施しているところでございます。それとあと一方で、販売や料理などの利用促進。やっぱり魚価がしっかりと安定しないと所得が上がりませんので。特に海部郡につきましては、とくしま海部水産物品質確立協議会で、例えばこだわりを持った規格の魚を特別な売り方をしてそこで単価を得るっていうことで、所得が少しでも上がるような取組を、これも皆さん方の協力をもとに実施させていただいております。また、このような様々な取組にどんどん新たなアイデアも加えながらですね、皆様方と一緒に進めていきたいと思っておりますので、また御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

[地域創生防災部]

続きまして、防災士のことで御意見いただきました。(1)の■の一つ目でも書いてあるんですが、これまで防災士を持っておられる方は結構な人数いらっしゃるんですが、実際にその方が活動されているかどうかというと、積極的に動かれる方はすごく動かれているんですが、資格だけ持ってるという方が結構いらっしゃいます。そのため、既に資格を取っておられる方の人材の掘り起こしや防災人材のネットワーク化を図りたいと思います。今回、能登で避難所の運営など行政だけではまずもってできませんので、地元の方、例えば自主防災会の方とか地元の方で運営をしていただくところまで進めないと実際の避難生活はおくれないように思いますので、しっかりと人材の掘り起こしを進めてまいります。

あと、防災士の資格取得に対する補助については、市町で補助があったように記憶をしてござい

すので、具体的お話がありましたらご相談いただければと思います。

[副局長]

では続きましてG委員お願いいたします。

[G委員]

Gと申します。私は普段、花火の製造・打ち上げをしているところから、この観光ページで言うと、11、12ページのところに関して意見を言わせていただければと思っております。まず、今年度の取組として、四国の右下観光局さんと、11月4日に浄瑠璃×吹筒サミットという形で12月10日に祭り×煙火サミットという形で新たな取組として事業を行いました。具体的に言いますと、浄瑠璃サミットに関しましては、襖からくりや浄瑠璃など4つの団体が集まってきて一か所で披露したと、そのあと吹筒の花火と花火を披露させていただきました。祭りサミットに関しましては、お祭りのだんじりや神輿をもって、一度にそこで見ていただけるようなイベントを行ったんですが、初めての挑戦ではありましたが、非常に面白い取組かなと率直に感じました。浄瑠璃サミットに関して先日反省会がありまして、私自身は、もう結構年齢が高くなってきてるグループなどは、今後、事業継承がしたいのだろうか？とクエスチョンだったんです。で、反省会の時に思い切って聞いてみたところ、事業承継したいと。次の世代に繋いでいきたいというのを明確におっしゃってました。そこに対してはすごく強い意志があるんだなど。ただ、方向が全くわからないとのことでしたので、このサミットを行った一つの成果として、そういうことが共有できたというのと、意志があれば、地域外の方でそれが阿南かもしれないかもしれませんし、県外かもしれない、ひょっとしたら海外かもしれないかもしれませんが、事業が継承される可能性がある。そういう方々と交流をしていくことによって、どんどん深く関わっていくことによって、事業の継承につながる可能性がある。それと、地域で住んでっていうことに繋がるかもしれないのが、今の状況なのかなと思います。

次に祭りサミットなんですが、非常に盛り上がりおりました。特に橘の喧嘩だんじりなんですけど、実際に行っている地域はすごく有名ではありますが、実際に見たことはないという方々がたくさんいらっしゃいまして、それがすごく迫力があってよかったと。カメラも何十台も囲って写真を撮っておりました。現場の方もですね、仲の良い方がいらっしゃって聞いてみると、非常に清々しいと。1回しか普段出せないだんじりが2回出せて、しかもこんな風に喜んでいただけるっていうのはすごく清々しいというところで、祭りをつないでいく、その地域だけではなくて、合わさった魅力を集めることによって観光コンテンツとして変わり得る可能性があるなど。そして、花火をくっつけていただいているのは、恐らくですが、花火があることによって裾野が広がる、小さい方から御年配の方まで楽しんでいただける受け皿を作ることにより参加率が向上するという意味合いでの花火だったのではないかなと思います。ただ花火自身も、ただただ大型花火を打ち上げたというのではなくて、次は地元の中、高校生とコラボしてみても面白いと思いますし、今までやったことない取組がもっとできるんじゃないかなと感じるところでした。これが、例えば大阪万博に向けた一つの切り札というか、そういうものになり得る可能性があるのではないかなというところを報告させていただきます。

それともう一点が、先ほどいいものを美馬に取られている話がありましたが、11月11日に「にし阿波の花火」というのを、主催と一緒に運営してまして、開催をしました。1万8千人を完全有料化で美馬と三好の間の防災館に連れてきて、観客の皆さんに楽しんでいただくと。花火師も全国から8社呼んできて花火を披露したのですが、経済効果はまだはっきりと出てないですが、10億円は軽く超えているだろうと言われております。やはり、花火はナイトコンテンツですので、宿泊からその後の観光が伴うというところで、この過疎地域の起爆剤となり得るものではないかなと思います。こちらも県

南ならではのやり方、たくさんの人を連れてくるためにはどういう形がいいのか、一度にがいいのか、分けてコンスタントにがいいのかっていうのは分からないですが、花火を活用して、その地域の方を、彼らを救うコンテンツまで可能性を広げていければ、と私自身も感じております。その中で、まだやったことないアートと花火を組み合わせることができたらと思います。今、瀬戸内国際芸術祭って形でやっておりますが、すごくたくさんの方が来られてます。そういった町おこしっていうのも一つの案としていいんじゃないかなと思います。なので、事業承継は待たなし。でもやり方が分からないという状況の中、様々なアイデアを頂き万博というものを一つの機会にして、より加速させていければなと思っております。以上です。

[地域創生防災部]

はい、ありがとうございます。「浄瑠璃サミット・祭りサミット」、今年初めてDMOを中心にやっていただき大きな成果がございました。それで、15・16ページ『「新しい人の流れ」の創出』の「現状の課題」で、地域コミュニティの衰退、伝統文化、祭礼などの行事の継承が困難になる課題に対し、「圏域にゆかりのある人々の地域固有の行事等への参加を促進し、関係者が一体となって文化や祭礼等の伝統行事を継承していきましょう」と書かせていただいております。これは浄瑠璃サミットや祭りサミットに通じるころだと思っております、そういった「なにか」と「なにか」を組み合わせる企画し、そして、それをどう売り出していくかというところが、これからこの地域でやらなければならない部分だと思っております。例えば、花火と民泊が一緒になってやっていただける、どういう組み合わせで、どう動き出していくかというところだと思っておりますので、またいろいろご指導いただき、御協力もいただければと思っております。

[副局長]

花火は本当にキラコンテツっていうか、かなりのコンテツになると思います。大きな魅力の一つだと思いますので、今後ともDMO、地域の方々、市町ともども含めまして、観光振興しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。御意見ありがとうございました。

続きましてH委員お願いいたします。

[H委員]

最近の移住の傾向について、先にお話ししたいと思っております。先日、日本最大の総務省のJOINのフェアが、移住フェアがあったんですね。で、この中(=出席委員)にもいらっしゃるなと思って、定住して下さっているんだなと思って嬉しく思っております。移住者っていつまで移住者って言うんですか?って私言いたいんですよね。私は、実は40年前のインターンの移住者なんですよね。で、3年経つと方言も覚えて、それで地域の人とのつながりも多分覚えてるので、もう町の風景になって、町の人は見慣れてるので、もう移住者では本当はなくなってるんですね。ですから、そこらへん辺りから以後が、どう住んでいていただけるかなっていうのが、ご政策の中での大事なことだと思って、それを踏まえて考えていく、支援っていうことですね、考えていただきたいなと思っております。

次に最近の傾向。コロナの収束があったのでものすごい急激に変わりました。今までは若い人とか、疲れた若い子、それから若い家族が自然を求めてとかいっぱい来てたんですけども、急に変わりましたよ。あの、50代の定年を見据えた方が1人。1人の方が多いいですよ、相談にみえます。漠然移住なんです。どこ行ったら、まだ決まってないです、全く決まってないです。で、そういった相談をこの間やりました。その時に出てくるのが、皆さん都会の方は、中間、地方都市とおっしゃるんです。地方都市希望なんです。中間都市ってこうですよ。ユニクロ、ニトリ、マック、イオンですよ。

それがあるところが中間都市で、それがあるところというのは、医療も学校も全部揃っている、集中してるところなんです。で、それが阿南ですね。そこから離れば離れるほど、ポツンと一軒家には近づきますよって言って、地図を広げて御説明するんですけども。南部はものすごい人気なんです。徳島って指定しては来られないんですけども、徳島の地図を広げたときに、どこが好きですか？とかって言うと、暖かいところ。人口減に関しては、すべての施策にかかっていると思います。それで今後、今日知事がいらっしゃったら本当にお願ひしたかったんですけど、ホールとデパートと商店街がないのが徳島なんです。もうこれ以上寂れないでほしいんですよ。寂れると移住者の人が来ても、駅の前に立った時に寂れたのを感じると、もう移住してきてくれませんか。できる限り生活の質、インフラの質を上げていただくように、お願ひしたいと思っていますので、よろしくお願ひします、以上です。

それと「空き家」という文言が出てないんですよ。すぐに住める空き家がなくなって、すごくいい移住者の方、来てほしいなと思う方いらっしゃっても、ここっていうものがもうなくなってきている状況なんです。ぜひそのこともよろしくお願ひします。

[地域創生防災部]

はい、ありがとうございます。H委員には移住の関係で、我々も非常にお世話になっておまして、まさに先頭で引っ張っていただいております。実際の活動に伴っての御意見でございますので、我々もですね、できる部分からしっかりと取り組んでいきたいと思ひます。どうもありがとうございました。

[副局長]

あと、県の方でね、さきほど寂れているというお話がありましたけど、そこはまた知事が先頭に立って、県をこう引っ張っていくんだっていうリーダーシップを発揮していただいております。で、我々も必死に徳島県のため、そして、ひいては南部圏域のために全力で取り組んでまいりますので、引き継ぎどうぞよろしくお願ひいたします。続きまして、I委員お願ひします。

[I委員]

新しく委員となりました、Iと申します。よろしくお願ひいたします。戎町は日和佐川河口付近にあり、日和佐地区の中では大きな津波被害が予想される地域の一つであります。川沿いには津波避難タワーがございます。つい先日、1月27日、美波町自主防災会は、和歌山県田辺市で県外研修を行いました。そして翌日28日、日高川町で開催の4県連携自主防災会交流大会に参加しました。この4県と申しますのは、南海トラフ津波で大きな被害を受けると予想されています、三重県、和歌山県、徳島県、高知県です。これは置いとしまして、現場自主防災会の津波避難についての懸案事項を2点述べさせていただきます。

1点目は要支援者の名簿についてです。災害発生時は、地域住民による車椅子やリアカーを使った共助となります。各市町では、本人の同意と個人情報による制限のある中で、個別避難計画を作成中と思ひますが、最新の要支援者名簿を地区自主防災会に配布をお願ひいたします。高齢者が過半数の地域では、該当者の死亡や施設入居、また新しく要支援者が追加されるといったように、大きく変動がございます。差し迫った中で自助を第一として避難支援するためには、情報の共有が必要であると思っております。

2点目は一時避難場所の安全についてです。2011年の東日本大震災は、雪の降る寒い日でした。高台に避難した人のうち、寒さに耐えかね、自宅に帰り、津波にのまれ亡くなった人もいます。能登半

島地震でも寒さに震える被災者が報道されています。避難場所でも風雨対策は万全を期さなければなりません。サバイバルの基本は体を冷やさないことです。避難場所で難に遭うのは、絶対避けなければなりません。地域住民が日常安全に、安心して暮らせるよう、一時避難場所の施設の整備・改良、これをお願いいたします。なお、先日訪問しました、田辺市の港湾周辺には4基の津波避難タワーがございましたが、すべて風雨対策のできているものです。以上です。ありがとうございました。

[保健福祉環境部]

I委員、御意見ありがとうございます。要配慮者名簿についてでございます。災害時に自ら避難することが困難な高齢者や障害者などの要配慮者につきましては、お一人お一人個別避難計画を策定することになっております。この個別避難計画ですね、この必要性につきましては、以前から言われておりまして、我々としましても管内の市町と共です、研修会などを行ってきたところでありますけれども、避難支援者になることに対する住民のためらいというものもありまして、なかなか十分進んでいないというのが現状でございます。一方で、要配慮者名簿につきましては、すでに管内、市町それぞれ策定しているとなっております。随時更新されているはずですが、名簿自体は市町が作成しております。また、ご確認いただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

[地域創生防災部]

続きまして、一時避難場所の安全対策といったご要望をいただきました。今回の能登半島地震を踏まえ、自助・共助というのが非常に重要で、公助というのは後からついていくような形になるように思っております。東日本大震災が起こった後、まず津波から逃げるということで、避難タワーや高台っていうのをずっと作っていったと。その後、何も無い野ざらしの津波避難タワーには逃げられないよという中で、備蓄の物を備えていったり風雨対策が進んでるタワーもあるということでございますので、一時避難場所の安全風雨対策はゆっくりとしたペースながらですね、課題が明らかになった時点で対応していただいていると思っております。これについては県だけでなく、市町の皆さんとも協力してやっていく必要がございますので、市町の方と連携しながら、少しでも良い一時避難場所になるように対策してまいります。

[副局長]

続きまして、J委員お願いいたします。

[J委員]

Jと申します、よろしくお願ひします。私からは2点ありまして、まず資料5の7・8ページに書いてます、健康づくりの推進と福祉の充実ということで、お話をさせていただきます。8ページの方の施策にですね、ライフコースに応じた健康に関する正しい知識の普及啓発っていうような文言があるんですけども、実際どういったものがあるのかなとちょっと気になっているところなんですけど。というのは、私は普段、総合型地域スポーツクラブという海陽町の健康増進施設でクラブマネージャーとして運動指導をさせていただいておりますが、海陽町の総合型クラブっていうのは、結構、他の団体とか行政の方と連携し、チームワークを持って活動していることが多くて、参考になればと思います。一からなんでもシステムを作り上げるよりも、いいところを真似していくっていうのがすごい時短にもなりますし、施策としてもいいのかなと思います。それで、簡単に申し上げましたら、私どものクラブはちょうど町の真ん中にある海部庁舎に隣接している公民館にクラブハウスがありまして。下に行けば社協があったり、下フロアには保健師さんがいたりっていうような、すごい良い条件のところ

でクラブを構えております。なので、保健師さんと連携した生活習慣病患者の支援者への運動アプローチであったり、あと介護予防対策としまして、地域の通いの場づくりとか、百歳体操の普及であったりとか、社協さんとはあとサロンを通しての運動指導、出張指導なんかしたりですね。あと他の団体の方とは、総合的なイベント作りを企画したりとか、サーフィンの体協の人とは、子供のスポーツイベント開催なんかいうように、スポーツとか運動・健康をキーワードにいろんな世代とライフコースに合わせたアプローチをさせていただいておりますので、地域の方にも喜んでいただいております。海陽町はさっきの話じゃないんですけれども、阿南よりもだいぶ南ですね、何もないところなんで、もちろん民間のスポーツクラブがありませんので、こういった総合型クラブっていうところを利用していただかない限り運動する機会がないので、地域の皆さんには喜んでいただいております。実は総合型クラブというのは、県内に30ほどありますので、そういった施設とかクラブを利活用していただければと思います。いつでも見学にお越しください。

あともう1点は一番冒頭にですね、さっきEさんも言ってましたけれども、この未来に引き継げる徳島とか、安全で住みやすいあたたかい持続可能な地域の実現とあります。一方で人口が2040年には県南では6万6千人ぐらいになりますよ、と。なんかこれを見たらすごい不安で、私もこれから海陽町で住んでいくにはやっぱり少し不安があります。で、実際まだ空き家を見つけられなくて賃貸なんですね。もし住むってなった時に、やっぱり今のところって海からあまり離れてないので、ここじゃなあ、と思って。ついつい買うのためらったりするところがあるんです。で、これからどんどん人が減少して行って、インフラの整備もなかなか追いつかないとか、道路は欲しいんですけど、その後、ちゃんと維持できるのかなと不安もありながら。そういうふうには考えていると本気でまちづくりを考えた方がいいんじゃないかなと思うんですよ。この20年先とか、今からでも遅いぐらいじゃないかなと思います。そういった時に安全で、どんどん人口が縮小していても住めるような町。海陽町、地震来たらすぐ津波。じゃあここじゃなくて、一住民としてですけど、もっと山手の方に移した方がいいんじゃない、とか。でも、やっぱり今住んでる人たちは、って考えると堂々巡りなところがあるんですけど。さっきの話じゃないけど、自分は子供にも聞くんですよ。やっぱり絶対進学して出て行くけど、どういう町だったら住んでみたい?とか。やっぱり仕事もいるし。だからそういうのを若い子の意見を交えながら街づくりを本当に考えていけないんじゃないかな。で、これをどの項目で見ようかなと思ったら、自分が言いたい項目がなかったの、どこだったかなと思いついて喋りました。ということで失礼いたします。

[保健福祉環境部]

J委員、ありがとうございます。まず健康づくりについてでございます。健康寿命延伸のためには、運動習慣の定着と食生活の改善が必要でありまして、以前から本県で問題視されております。県民局では関係機関と連携して、徳島野菜週間におけます集中的な啓発でありますとか、健康づくり推奨店の登録周知、また、世界糖尿病デーに合わせた、庁舎へのブルーライトの点灯、あるいは、健康ポイントアプリ「テクとく」の周知などに取り組んでおるところであります。生活習慣病ですね、この対策につきましては、なかなか特効薬というものもなく、県民の皆様、お一人お一人に根気強く取り組んでいただく必要があろうかと思っております。県におきましても働き盛り世代を含めた幅広い世代の方を対象に啓発活動に粘り強く取り組んでまいります。

[地域創生防災部]

あと、人口減少の話ありがとうございます。人口減少については1ページのところにも書いておりますが、実は2020年の人口は1920年の人口とほぼ変わらない。17ページのグラフでもすでに人口減少

がすごいスピードで進んでいるといった事実がございます。そういった中で、この地域に住み続けたい、地域を守っていくんだ、ということになると地域に愛着を持っていただくことが重要になります。例えば子供さんが仮に出て行かれたとしても、チャンスがあれば戻ってきたいと思ってもらうためには、地域への愛着ということが一番大事なキーワードじゃないのかなと。特効薬ではないのかもしれませんが、じわじわと効いてくる一番大事なもののじゃないかなと思っております。それを我々はシビックプライドって呼んでいるんですけども、この地域への愛着をしっかりと持っていただけるよう、地域の魅力をたくさん知っていらっしゃる市町の方、Uターン・Iターンでこちらに来られた方、それから移住された方、新たにこちらに来た方と地域の魅力をしっかりと共有しながら、地域への愛着、シビックプライドの醸成を進めてまいりたいと思っております。

[副局長]

それでは続いてK委員をお願いします。

[K委員]

Kと申します。よろしくをお願いします。私も移住関係のお話をさせてもらえたらと思うんですけども。15ページの何回も出てきてる、ゆかりのある方が地域を好きになれるとか誇りを持つというお話で。私自身、まだ3年目なんで移住者と言っていいと思うんですけど。なんで来たん？っていうのは数えられへんぐらい聞かれますが、正直、なんでって言われるとないんです。山と川と海が三拍子そろってるところって、徳島以外にもあると思うんですよ。その中で何がきっかけかなって思った時に、やっぱり地元の方で、地元がすごい好きっていう方に私は初めて、徳島で初めて出会ったのがそういう方だったので。やっぱりそれが一番徳島を惚れさせる、一番近いPR方法なのかなってというのはこの3年間ですごく感じました。私自身その後、徳島の観光をPRする側の立場になって、現在、コテージと徳島の県産品とかを売る地域商社の二軸で活動してまして。阿南の淡島エリアっていうところで宿をやっております。宿の下で別の方がトレーラーハウスをされており、うちの宿と引き継がせてもらって、去年で3,000人のお客様が何もなかったところに来られてるっていうのは、すごい貴重な数字かなと思いますし、やっぱりその3,000人をいかに引き止めるかっていうのを、私たちはやっていかないといけないと思います。その中で結構大きいのが、徳島は何がありますかとお客さんに聞かれた時に、何もないって言っちゃうのか、30分下れば美波町っていうところがあって、とお話をするのか。その選択で移住者の数が大きく変わってくると私自身の経験でそう思ってます。徳島に来て多くの方が鳴門の渦潮と祖谷のかずら橋に来られるんですけど、実際、県南に観光に来られている方って少なく、なんとなくグーグルマップで徳島の海沿いで「宿」って調べたら出てきましたっていう方がほとんどです。なので、逆にチャンスかなと思ってます。私たちが行き場所をコントロールするっていうか、逆に誰にも知られてないので。何もない、っていうんじゃない、自分がいいところ、地元の方からしたら全然あんたどこしょうもないっていうところでも、県外の方からしたらもう言ったもん勝ちやと思うんで。そういうのが大事かなと思います。

あともう一つ。お話しました地域商社の方では、番茶収穫とか一緒にやらせてもらってます。実際に番茶とか徳島のもの買われてる方って、東京のタワーマンションとかに住まれている方が多くて。東京ではご存知の方もいらっしゃいますけど、500mlのペットボトルに入った番茶が平気で1,500円とかで売られている。それほど発酵文化も東京の方はすごい進んでるし、そういう商品のストーリーみたいなのをもっと徳島の方から発信しないといけないと思います。徳島ですごく良い素材があるっていうのを、地元の方がもっと知らないといけない、って言ったらちょっと上からですけど、っていうのをすごく感じています。なので、さっきおっしゃっていた人形浄瑠璃とか祖谷のかずら橋とか写真

撮るだけでは多分2回目はないと思うんですけど、徳島県で職人さんと会って、人形浄瑠璃の例えば人形遣いの方とお話してっていう、記憶に残るような旅をしてもらうっていうのが、私の取組の一つにもなります。徳島を安売りせずに、さっきからお話されている環境問題とか全体の取組に関係することは移住の方とか若い方とか、徳島を好きって心から思ってる方を増やすことが大前提なのかなと思うので。そのあたり、私も尽力させてもらえたらと思いますので、よろしくお願いします。

[地域創生防災部]

自ら行動をされたことを踏まえての御提言で、大変ありがとうございます。徳島は何もないっていうのは、実は自分も含めてそうかなと思いました。やはり戦略的なプロモーション、それから旅行商品のプロデュースだと思ってます。それについては、行政がするよりも民の方のいろんな知恵を借りながら行政としてどう支援できるか、だと思しますので、いろんな意見交換をする場であったりとか、民の取組を支援できるような仕組みづくりとか、そういった部分を行政としてやっていくべきかなと感じました。ありがとうございます。

[副局長]

では、続きましてL委員をお願いします。

[L委員]

Lと申します。よろしくお願いします。私は那賀町なんですけれども、那賀川の中流域で森づくりをしております、今までも評価とか会議にたくさん出席させていただいて、多くのことを勉強させていただきました。それで、おそらく県の方も町の方もあまり私どもの山づくりはご存じないかなと思っております。で、私どもの山づくりには2人の考えが基本となっております。まず祖父ですが、どの木にも役割があるという考え。そしてもう1人は大阪府の指導林家であります大橋慶三郎先生ですが、木の葉からヒント得てどういうふうに作業道をつけたらいいか、という作業道の基本を考案された方ですね。お2人の考えを基にして、家族で山づくりを行っておりますが、常に危機感を持ちながら、自然をよく観察し二度と同じ失敗をしないように厳しさと戦って毎日林業をしております。では、林業にはどういう課題があるかと申しますと、先ほどからいろいろ言葉が出てきております、持続可能な、それから多様性、それから獣害ですね、従事者の減少、価格の低迷。で、それに関連した多くの課題がどれを取っても解決にはちょっと程遠いかな、という感を拭えません。そしていろんな解決策も私も提案をさせていただいたつもりなんですけど、解決に至っていないのはどうしてでしょうか?っていう疑問は常にあります。私どもは平成8、9年ぐらいから、全国から視察を受け入れておまして、林業関係の方は最初は本当に多かったんです。いろんな補助金とかありますので、そういう関係で来られている方が多かったんですが、最近はそれ以外の人が増えてきました。その内容はというと、山づくり、作業道の研修、環境、生物多様性、木育、それから山での遊び。それらを地域の方々と共にイベントを企画して年齢的には小学生から上は問いません。元気な方だったらもうお越しく下さいというふうなことを、皆さんにお伝えしているんですけども。そして去年ですね、生物多様性のものすごく活躍されているプロフェッショナルの方が、ぜひ山を見せてくれという事で見に来ていただいて、是非ともここでイベントをやりたいから人数を制限してここでやらせて欲しいということで、2回ほどやりました。いろんなプロモーションもありますけれども、私ども口コミがすごく多いです。で、待ってる方、待っていただけないと来られないというふうなことで。3月以降にもそういう計画をして。それでも人数は人数制限を立ててもオーバーしてるような状態ですね。県外からの方が多いため、町内の宿泊施設を取ってくださってます。宿泊施設の方から地元に着るお

金、私たちはもう本当にありがたいです。自分が儲かるんじゃないなくて、みんなで儲けよう、というふうなことを、思っていますので。そういうことをたくさんの方に後押ししていただいたり、協力していただいたことで、昨年10月、環境省からの生物多様性共生サイトに認定を受けました。これは徳島では初めてでございます。そして、OECMを登録へと、やっぱりネーミングを今ちょっと考えまして、また登録していただければ、先はどうなるかわかりませんが、そういうところで、日本の林業を世界に向けて発信できることを私たちは期待しています。私たちは家族でやっておりますので、ゆっくりゆっくり、そろそろとやって、亀さんみたいな動きでゆっくりやってきましたけれども、やっぱりいろんな知恵、それからいろんな方の協力によって、やったら小さなことでもできるんだということをね、確信しました。なので、皆さんにやっぱり後に続いて欲しいというのが本音でございます。2月17日のチラシを皆さんのお手元に配布させていただいております。生物多様性保全活動の最前線を知る、学ぶ、いかすということで、裏表で、配布させて貰ってます。その中で15分ほど、私も今までの取組のお話させていただける時間をいただきました。これは環境省に提出しました、共生サイトの私どもの山の写真でございます。やはり林業がね、少しでも活性化してほしいという願いがあります。那賀町でもやっぱり基幹産業は林業だと。私たちはもうこれから切るだけではなかなか生活はできません。その共生サイトに適したこういう山を皆さんに見ていただいて、どういうふうにしたら地球が守れるか。そういうふうなこともね、勉強していただきたいし。でもなんか気持ちいいよねって、それでも私はいいと思うんです。それで来ていただいた人がね、またいろんな発見して下さるんです。私たちが今まで目にしていなかったことをね、いろんな人が。あっこれ何、これ何って。で、専門家の方がこれはこうだよ。木はこういうふうにして成長していくんだよということに、去年はものすごく勉強させていただきました。なので林業はダメダメって言うんじゃないなくて、やはり基盤整備をちゃんとやっておれば、こういうことも可能になるということを私たちは勉強させていただきました。皆さんも先ほど言われたように、海もそうなんです。G7でも決められているんですね。2030年に向けて陸、海各30%保全するんだというふうなことが打ち出されてますので。磯焼けに心を痛めてる方もおいでます。そういうことがないように私たちは今、私たちが取り組んでいかないと、後ろに後ろに回すようなことは絶対ダメだなと思います。なので、一生懸命私たちがこれからも勉強していきますので、どうぞ皆さんにも応援していただきたいな、そんなふうに思っております。一方でスピード感が必要なとは思いますが。

[農林水産部]

L委員、非常に貴重な大所高所からの林業に対する御意見、毎回感心しているといえますか、大変勉強させていただいております。L委員が常々持論としておっしゃられていることは、まさに世界の流れ、本流をついておまして、生物多様性というのは、かつてはそういう単語すら使われることもなかったんですけど、現在は、農業・林業・水産業においても、地球の自然環境を守るという意味から、生物多様性は非常に重要で、国連でもそういう採決がなされているような案件であると承知しております。そのような状況において那賀町で林業の立場で自伐型を実践されて自然環境に配慮した森林施業の技術を極められたL委員や、ご家族のところへ、全国からいろんな視察が見えてるっていうのはもう本当に頷けることだと思います。せっかくこの地元でL委員のこういった技術、体現されている林業がでございますので、我々自身もしっかりと継続して学ばせていただいて、さらに発展するような取組ができればと考えておりますので、今後とも御協力、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

[L委員]

すいません、それともう1点。Bさん、明日からですかね。能登の方へおいでるっておっしゃいました。珠洲市とか能登町で自伐型をやってる方も被災されて。で、本当にね、苦しいんだと思いますが、皆さん頑張ってくれて。また応援にすぐに入った自伐型の方がおいでます。心のケアがすごい大事だと思いますし、そういうことが起きないようにね。山でも海でもできたら本当にいいかなと思います。どこで災害が起こってもおかしくない時代ですので、皆さんどうぞよろしくをお願いします。

[副局長]

はい、では続きまして、M委員お願いいたします。

[M委員]

いつもお世話になっております、Mでございます。私から2点お話をさせていただきます。1点目は各委員が言うておりましたように、いつ起こるか分からない東南海の地震でございます。私がまだ幼い頃、昭和21年の南海地震がございました。母親の背中に負われて逃げたらしいです。海の水が来て膝まで浸かって逃げたらしいです。それから東日本大震災でございます。そしてようやく復興できたかなと思っておるところに、この能登のF震でございます。いつこの地域で東南海地震が起きるか分かりません。そういうことで、私の地域は穴喰でございますけれども、近くに避難タワーを設置していただいております。一基でございます。まだまだ足りないと思っております。避難タワーを建てるには多大なお金がいると思っておりますけれども、命があつての避難所でございます。とにかく命を救えるような施設を今後また県にも重ねて、お願い申し上げます。

次に農業でございますけれども、一次産業、漁業、農業、林業、本当に後継者が激減しております。高齢で跡継ぎがいません。耕作放棄地が本当に増えて見るも忍びないような地域も増えてきております。どないかして農業を、と思っておりますけれども、本当に人材がいません。農業に取り組んでくれる一次産業に従事してくれる若者、いません。高齢でリタイアしたくてもでけん人が本当に増えてきております。これを本当にどうしたらいいか。もうみんなの御意見をいただければ、なかなか解決ができないと思っております。そしてまた農業は機械がいます。もう機械が古くなったんでやめるといふ人がいますけれども、共済連のご支援をいただきまして、今年度からうちといたしましても、トラクター、そして田植機、ハローを貸し出すことにいたしました。そういうことで、本日出席の委員さんには、海部郡内ではございますけれども。農業を機械が無くてやめるといふ人は、農協が機械を貸し出すということをお願いいただければと、どないかして農業を活性化していきたいと思っております。そして、きゅうりタウン構想に取り組みまして、もうかれこれ10年間脚光を浴びております。今26名の方々が、移住者で来て、農業に取り組んでくれておりますけれども、4年間はコロナで活動ができませんでした。また町、県へのお願いといたしまして、施設きゅうりの経営は初期投資が15aぐらいで4,000万円以上かかります。なかなかこれだけの借銭をして、農業に取り組む者はいませんので、できればもう少し、お願いですけれども、あたたかいご支援を重ねてお願い申し上げます。また、今年度からきゅうりタウン構想の活動をしていきたいと思っております。重ねて要望ばかりでございますけれども、お願い申し上げます。以上でございます。

[地域創生防災部]

まず、安全安心な暮らしの実現といったところでございます。南部圏域では南海トラフ巨F震や那賀川の風水害など、いつ災害が起きてもおかしくない状況と認識しております。そういった中で、ま

ず命を守る行動が大事ですが、先般、地震学会に行く機会がございまして、その時の先生方がおっしゃったのは、「まず逃げろ」と「住宅の耐震化しろ」の2点でした。地震学会の先生方なので、もっと高尚なことを言っていたのかなと思ったんですが、「基本はまず逃げろ」と「住宅の耐震化をしろ」、それをしきりにおっしゃってました。なので、まず自分の命は自分で守る行動をぜひとっていただきたい。住民の方には、ぜひとっていただきたいというお願い、それから宍喰地区は津波避難困難区域があると認識しております。それに対して行政としてどういうご支援ができるのか、関係する市町と一緒に連携しながら考えていきたいと思いますが、まずは、ご自分の命を守る行動を是非していただきたいと。それをぜひ近くの方にもお伝えいただいて、少しでも地域が安全になるように、私どもも周知してまいりたいと考えております。

[農林水産部]

失礼いたします。M委員の方から、農業全般にもう人がいないと、非常に深刻であるという状況を御報告いただきました。私どもも強く認識しておるところでございまして。今回ちょっと海部郡という地域を捉えて喋らせていただきますが、この海部の農業が維持発展していく上で何が必要なのか、どんなアイデアが有効であるのかというのを、私なりにちょっと思い浮かべていることがございまして。それをこの計画書の14ページの(2)の近くの1番上に、一言ですけど表現させていただいております。海部地域では「就農」や「農ある暮らし」を志向する若者なども受け皿となる、例えば、「農業支援サービス事業体」を設立しまして、多様な担い手を確保、育成する「海部型移住就農システム」を構築しますとしております。委員も先ほどおっしゃられたように、ここ10年かけて取り組まれているきゅうりタウン構想は、大成功を遂げられて、全国から視察がひっきりなしにくるようなモデル事例となっております。ただ、おっしゃられる通り、今後、リタイアされる方もある中でどれだけの生産規模が維持できるかなど、いろいろ心配はあると思います。それで、きゅうりタウン構想は維持しつつですね、きゅうりタウン構想で培ったノウハウをしっかりと活用して、この海部郡の農業・農地をどう守っていくか、県全体から見ると農地面積は少ないんですが、この農地をしっかりと守っていくためには、どういう仕組みが必要かっていうことを考えております。今考えてございますのは、現在、地元で担い手として頑張っていたいただいている方はもちろん中核として継続していただき、加えて外からの人、きゅうりタウン構想で成功したそのノウハウも活用しながら、きゅうりだけじゃなくて、農業を希望する方や、農ある暮らしを希望する方は、点の集合として、誰でもとりあえず受け入れる仕組みができればと考えています。農ある暮らしを志向する方、あるいは専門的な本格的な農業を目指している方、いろいろあると思いますが、どのような農業への関わり方を志向する方でもこちらの地にくれば、いろんなメニューを提示しますよ、という受け皿が必要と考えています。きゅうり農家の専業農家になる方はもちろんありがたいですし、いやうちは家庭菜園程度でいいんだという方は、家庭菜園から始めていただいて、希望があればその空いた時間、年齢等にもよりますが、空いた時間は受け皿となります農業支援サービス事業体っていうものを構築しまして、そこで、例えばスマート農業、ドローンを活用した防除であるとか、草刈りであるとか、トラクターでの作業であるとか、その人が望むのであれば、そういった受け皿作業を請け負う場を提供して、そこでどんどん農作業などを引き受けていく。そういった形で受け皿の事業体を中心に、できるだけ多くの人をこちらの海部郡まで来ていただいて、総力で点の数でしっかりと守っていく。で、この県南を選ぶっていう部分は、もう冒頭から委員の皆様方おっしゃられている通り、こちらには海・山・川っていう非常に魅力的な強みがあります。別に農業を望まない方でも、この県南の地を求めて移住なさっていただければ、それはそれでありがたいんですけど、その中で「特に私は農業にこだわりたい、関わりたい」という方を受け入れ支援をして参りたい。

加えて、私は農業・林業・水産業は相互に非常に親和性があると思ってまして、農業が好きな方ってというのは、例えば里での暮らし、里山がある暮らし、農業の傍ら薪を生産したり、備長炭を焼いたり、あるいは場合によったら季節によっては水産業のお手伝いをしたり、林業や水産業にも関心がある方が多いのではと思っています。農・林・水の親和性をしっかりと表に出しながら、これを魅力として、何かシステム、仕組み作りができないかなと考えております。この辺りにつきましてはこれからですね、農業の皆さん、あるいは市町の皆さん、関係する皆さんと一緒にしっかりと新たな仕組みを構築してまいりたいと考えておりますので、いろんなアイデアをいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

[M委員]

心強いお言葉を頂戴した。また、ともに頑張ってまいりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

[副局長]

続きまして、N委員お願いいたします。

[N委員]

すいません、皆さんと重なることが多いと思いますけれども、ちょっと違う視点があるなと思っていただければ幸いです。一番最初にB委員さんがソフトはもう大丈夫です、とおっしゃってくださったのが、すごく心強いですが、そこに人権意識はどんな感じでしょうかと思って。常にお願いをするんで、差別する側、される側、排除する側、される側、いつもこう入れ替わって。昨日まで排除されても、今度は、排除する側になってしまうと思うんです。例えば、言葉がわからないとか、体が不自由であるとか、こう弾かないやり方というのがあるのかなということが、ちょっと気になっているところです。戦略2のところで、住み慣れた地域という言葉があったんですけども、一方コンパクトシティなんていう言葉も聞いたりします。で、そのあたりをどう考えて、どのように自分の胃の中に落とし込んでいけばいいのかな、っていうところも不安があります。

次に戦略5で農業のことなんですけれども、全く無縁だったのですけれども、私の知人の娘さんが彼女のことともよう子供のときから知ってるんですけども、お仕事を辞めて、お家の農業に専業しますっておっしゃったんです。すごいなと思って嬉しくも感じたんですけども、農業に全く無縁だった私も少し心配を感じました。感じたところにこの冊子が届いて、生産者の不安定な経営が続く状況という言葉があって、なんとか補助・保護で支えていくような形になればと思っています。で、本当に農業って私たちの食べ物である命と、それからFを守るお仕事なので、そのあたりに寄与していきたいなと感じております。

最後に私たちの事業なんですけれども、夢ホールとか、阿南市文化会館、コスモホール、阿南市情報文化センターを中心に文化事業による豊かな町作りを推進しております。昨年は一昨年からはじめている音楽の日という会館をまるごと楽しむ事業の中で、観光ブースを県の方から作っていただいて、問い合わせいただきました。私たち、今までホールの中で音楽を楽しんでいただくというような事業を続けてきましたが、地域の方にも広がってきたので、例えば、世界的に国際的な音楽フェスティバルなどが観光地でよく行われていますが、いつかはそれを夢見ている、ホールの中だけじゃなくて、地域の方たちと一緒に、何か観光のコンテンツになればいいかなと思いつつ、本当に音楽のことしかしてこなかったのが、地域の観光コンテンツとか、なかなかわからない状況にあって、アドバイスをいただければと思います。今日、この会議で発酵番茶の事を聞いたので、また、つながっていければ

いいかなと思います。

もう一つだけ。小中高生のためのインリーチ事業というのも、3年前から行ってまして、今まで、アウトリーチという学校へ音楽を届ける事業を行ってたんですけども、ホールで子どもたちと学年単位で招待して音楽を鑑賞するのは面白いんですけど、ホールという建物をも感じ、経験していただきたいと思って来てもらっています。これは、徳島市からの視察を受けて、徳島市内でも行われるそうなんですけれども、徳島市にはホールがないので、どのようにするんだろうかと心配しているところです。建物が人間を作る、人間性を作るっていうことを聞きますし、本当にH委員さんじゃないですけども、県を代表するようなホールが1日でも早く建つことを願っています。以上です。

[農林水産部]

御意見ありがとうございます。最初の御意見の中で、お知り合いの方が仕事を辞めて農業を志向されているというお話をいただきました。そういった志向の方々、最近本当に増えておると認識しております。先ほどから重複しますが、農業経営のパターンはいろいろございまして、本格的に機械装備をして、初期投資に何千万円をかけてでもやりたいっていうパターンもあれば、家庭菜園の延長からスタートする経営もあります。また、いろんなアプローチがあります。特にこの県南では、そういった本格的なアプローチから、ちょっとしたアプローチで入る方まで、皆様が多様な担い手の一人として農業・農地を守っていただける役割を担っていただけるよう、皆さんと一緒に考えてサポートしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

[保健福祉環境部]

あと、避難所の人権についてでございます。先ほど出ました高齢者でありますとか、障害者の要配慮者、それに女性でありますとか、あとトイレの問題等がありますが、現状の避難所というのは、なかなか快適な生活をおくることができない状況というのは認識しております。これも徐々に、ということにはなるんですけれども、一つ一つですね、これまで何度か災害等を経験しております、その経験を踏まえて避難所のQOLを高めるように努力してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願ひします。

[地域創生防災部]

文化芸術を観光コンテンツに、といったお話であったと思います。先ほども少しお話したのですが、地域にある自然とか文化も含めて、どう組み合わせ、どうプロデュースして、どう売っていくのか、が大事だと思っております。そういった組み合わせの新たなパーツとして、文化芸術というご提案をいただきましたので、そういった取組を考えてみたいと思っております。

[B委員]

阿南防災士の会のBと言います。先ほど御説明の中で、男女共同参画の観点や要配慮者の観点について言っておりました。昨年、長池町で女性防災リーダー育成講座というのを阿南市では初めて開催させていただき、3月6日には阿南高専の多田先生の方において発表させていただく予定です。また、2月18日は私の地元新野中学校で、これは南部総合県民局さんの皆さんの御協力、また阿南市の危機管理課さんの御協力等で、防災祭りということでさせていただきます。その中でも、福祉の観点、高齢者の観点を避難所開設、また、医療救護所の開設等を阿南市としてはしっかりと進めさせていただいてございます。おっしゃっていただいた通り、男女共同参画の観点を入れながら、避難所運営といった観点、我々防災士は取り組んでまいります。

[副局長]

はい、では続いて0委員お願いいたします。

[0委員]

0でございます。10ページの自然資源等の利活用ということで、私、ちょうど3枚目に、私自身とこの解体の写真を使っていたいております。ありがとうございます。ちょうどこれが2010年に徳島県の第1号店として木沢シカ肉等加工施設ができた当時の写真なんですね。もう10数年経ちますけれども。それでですね、現在、この徳島県、特にこの南部の場合ですね、鹿肉加工施設が何施設あるかお聞きしたいのと、年間の野生鳥獣の捕獲頭数は何頭ぐらい、猪、鹿ですけれども、何頭ぐらい捕獲をされているのか。そしてその各施設の運営状況ですね、鹿は獲れても販売のルートがないとかね、いろいろこうネックがあるんですね。だからどのぐらい販売なんかもできているのか、結構潤っているものか。それをお伺いしたいと思います。

それとですね、魅力度アップということで11ページになりますけれども、特に、赤井英和さん、有名人の写真とか、つい最近もご一緒させていただきましたけれども、こういう宣伝の仕方も大変いいと思いますね。どんどん続けていってほしいと思います。そして、その中にもう一つですね、今、国交省のゆきかう那賀川推進会議でですね、阿南市役所さんとか、那賀川の図書館とか、羽ノ浦のコスモホールとか、四季美谷温泉の4会場ですね写真展を。那賀奥の自然とか、この県南の自然ということですね、写真展をやっていたしております。大変好評なんですね。そして、この4月の初めから、夢タウン徳島で大がかりな写真展もすることになりましたので、ぜひこういった写真展もどんどん含めていってくればありがたいなあと思います。以上でございます。

[農林水産部]

0委員、御意見ありがとうございます。まずは、写真を採用させていただきました、誠にありがとうございます。御質問いただきました捕獲頭数につきましては、令和4年度の実績で、鹿につきましては県内で18,162頭、うち南部管内が5,418頭。猪につきましては、県内で8,112頭、うち管内が2,031頭。合計しますと県下で鹿・猪合わせまして26,274頭、うち南部が7,449頭の捕獲となっております。それで、管内の捕獲頭数につきましては、ほぼ横ばいできておるんですが、令和4年は、直近の令和2年3年に比べると増加してございます。次に、処理解体施設がですね、南部圏域の数を申し上げますと、現在6施設ございます。那賀町が、旧木沢村に2軒、旧相生町に1軒、それと海陽町1軒、牟岐町1軒、阿南が1軒と、全部で6軒と承知しております。それで、この経営がどうなっているかについては申し訳ございませんが、今手元に資料がございませんので。今日はちょっと御説明できません。よろしくお願いいたします。

[地域創生防災部]

写真展のお話をいただきました。0委員はご自分で山に入られて、非常に美しい写真を撮られており、よく拝見させていただいております。普段なかなか見ることができない那賀奥の自然を発信することで、南部圏域の魅力を効果的に伝えることができるように感じます。ゆきかう那賀川推進会議のメインの事業としてもやられておりますし、我々もどういった形でサポートできるのか、引き続き連携して参りたいと思います。

[0委員]

夢タウンの来客数は1日1万人なんです。だから、すごく宣伝効果あると思いますのでね。できればそういうところに参加をしていただければと思います。

[副局長]

はい、では、続きましてP委員お願いいたします。

[P委員]

Pです。よろしくお願ひいたします。まずは、防災に関してです。先ほどB委員さんが体育館に冷暖房がないとの意見が出ておりましたが、私からは洋式トイレがないように思います。高齢者は洋式でないと具合がちょっと悪くて、小さい子供さんも洋式でないとおしっこができない子も最近おります。こういうふうに災害がきたら、洋式トイレが必要だなというのを日頃から感じております。阿南市大湊町にある武道館、剣道と柔道の施設があるんですけども、そこで年に1回ロータリークラブ主催の剣道大会があつて行くんですが、そこは広くて、女子だけでも15ぐらいトイレがあるんですが、洋式が一つもないんです。体動かす人なので洋式トイレは必要ないのかもしれませんが、応援に来てる人とかありますので、是非とも洋式のトイレを要望いたします。それと、この1月1日には石川県に大きな災害が起こったので、改めて事前防災。先ほど小津部長さんがおっしゃったように、この逃げ遅れセミナーとか、まめな訓練みたいな、県民が訓練を受けないといけない義務化するような制度とか、そういうのに取り組んだらいいように思います。

次に道のことです。高速道路のことなんですけども、やはり命の道といいますか、高速道路は8の字になって初めて経済の道・観光の道になるので、阿南まではもう見えてきたというか、嬉しい知らせがきてるんですが、やはり美波町、牟岐町、海陽町、高知っていくのが理想と思います。で、Cさん、牟岐町で長年熱いエールを送ってますし、町長も熱いエールを送っているんで、牟岐町だけ何かちょっと出遅れているので、もっと県南で声をあげなければいけないのかなというふうに思っています。それに合わせて主要幹線道路の道の整備、これ命を救いますから。急に地震とかきたら、やっぱり道は必要なので合わせて整備をしてもらいたいと思います。いっぱいあると思うんですが、例えば私の近くの加茂から那賀町に抜ける道で、数年前に黒河バイパスっていうすごい立派な道を作っていただいています。町民もすごく喜んで、今にも驚敷の方に、大塚の方に抜かれるような夢があつたんですけども、宝の持ち腐れみたいな感じなので、他にもいろんなところにそういう場所があるかも分からないので、今はもう命の道ということで、合わせて整備をお願いしたいと思います。

次に先ほどからお話が出てます、観光の事です。11ページにも掲げてくれてますように、歴史とか伝統産業っていう話題が上がってまして、先ほどK委員さんが、徳島何もないっていう声がありましたし、私自身も友達がおいでしてくれたら、一回は太龍寺で、薬王寺で、あとお松権現っていう感じで行けるんですけど、2回目同じ人が来てくれた時にどこへ行こう?っていう風に思ってしまったら、ちょうど私阿南商工会女性会に所属してまして、ちょっとコロナの時にB&G財団の方からお話があつて、阿南市の偉人さんを漫画にしませんかというような話をいただいて。ちょうどコロナの最中だつて、他の事業もなかったんで、今皆様のお手元にこの甚五衛っていう阿波水軍を率いた侍ということで漫画を作成しました。徳島城博物館の根津館長さんにも協力いただいて、歴史に見合ったような漫画になりまして。あと甚五衛さんのお墓を椿泊の婦人会の人がずっと守ってるとかということで、歴史に興味のある人が椿泊にすごく行ってる、とか。この土日にはJRさんとか、タッグを組んでというような話もあつて、私的には嬉しく思っています。あと、新聞でこういう漫画ができたのよっていうのを載せていただいて。他にもですね、お松権限のお松さんとか、他にも阿南市とか県南には、いろんな漫

画になりそうな、観光に結びつきそうな題材があるんですが、漫画を作るには非常にお金がかかったりします。で、こういう現場があるっていうのを、このような委員会みたいに四国の右下さんと、興味のある県南の市民と言いますか、協議ができるような場所があれば、観光につながるのではないかなと思いました。やはり事業するには資金がないと運営ができないので、そういう委員会があればいいなと思いました。例えばですね、阿南市の活竹祭が2月の24日にあるんですけども、今年は何じめての試みで、ステージの後ろに、企業さんが広告を載せて利益を生み出すようなイベントにするようですが、そのような新しい試みも座談会の中から出てきたと聞いておりますので、そういうような委員会を設けていただきたいと思います。以上です。お願いいたします。

[地域創生防災部]

まず、洋式トイレのお話、それから、事前防災の訓練のお話がありました。徳島県では災害時の快適トイレ計画を作りまして、トイレをするにあたって、例えばトイレトーパーであったり、備蓄品の話、それからトイレの洋式化という中で、これは事前防災にもつながると思いますが、今回の能登半島地震をみましても、水がなくなって最初は簡易トイレを使われるケースが多いと思います。それで、簡易トイレを普段から洋式化したものを準備しておくべきだということで、例えば公共事業で現場小屋にあるトイレを洋式化することを指導しております。いわゆるリース屋さんが持っている簡易トイレを徐々に洋式化するよう取り組んでおります。あと各施設におけるトイレの洋式化等につきましては、それぞれ施設管理者がございまして、総じて洋式トイレ化の方向ではあるんだろうなと思います。また、地域創生防災部では防災出前講座ということで、学校や町内会に出向き防災の出前講座をやらせていただいております。今年度は12月末までに約2,500名の方に研修をさせていただいており、引き続き、できるだけ多くの方に正しい防災知識を得ていただくため取組を進めて参ります。

次に観光のお話で、P委員から漫画「阿波水軍を率いた侍 森甚五衛記」のお話がありました。12ページの「著名人によるPR」ということで、赤井さんご夫妻が載っておりますが、実は先日、赤井さんが椿泊においでになり、この漫画を見ていただいたり、椿泊の歴史をめぐっていただきました。今後、その様子を動画にしてYouTubeに掲載する予定です。つきましては、地域で盛り上がり取り組んでおられる方、民の方がやられてる取組も含めまして、私たちに情報提供していただきますと、行政としてもバックアップもさせていただきながら、官民連携してPRに取り組んでまいりたいと思っております。ぜひ情報提供をお願いいたします。

[県土整備部]

県土整備部でございます。高速道路、阿南市をはじめとする主要幹線道路の整備ということで御意見いただきました。高速道路の状況については先ほど御説明させていただきましたが、牟岐町につきましては国道55号牟岐バイパスの整備を国が主体となって整備していただいております。手持ち資料が無いので詳細な説明は出来ませんが、こちらも国と連携して進めていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。

県道阿南小松島線については、「持井工区」、「だいが工区」、「東だいが工区」、「阿瀬比工区」の4箇所で開催を進めております。「持井工区」、「東だいが工区」については現道拡幅ということで現場着手しております。「だいが工区」はバイパス整備でございまして、現在詳細設計を進めており、出来るだけ早い工事着手を目指して参ります。「阿瀬比工区」については、今年度地元説明会で了承を得ましたので、今後詳細設計にかかっていきたいと考えております。今後とも主要幹線道路の整備をしっかりと進めて参りたいと考えておりますので、御協力の程よろしく申し上げます。

[副部長]

はい、では、続きましてQ委員お願いいたします。

[Q委員]

Qです。よろしくお願いいたします。もう時間もかなり過ぎているので、簡単に私から2点だけ質問をさせていただきます。1点は防災の点、もう一つは、うちのやっているサテライトオフィス誘致で質問したいと思ってます。先ほどより皆さんから自然防災だったり、避難場所について御質問されてたんですけど、わたくしはですね、避難後のこともしっかり整えて欲しいなと思ってます。どういうことかというか、先ほど319箇所には避難所があると言ってたんですけど、誰がどこに逃げているのかっていう把握をDX化して、素早く管理できるようにして欲しいなと思ってます。そこは想像でしかないんですけど、例えば避難所に行って手書きで受付をして、それをまたシステムに入力するようなことをやっているのと、たくさんミスが起きて、実際助かってる人が助かってないのかもしれないみたいな状況に陥ったりとか。そういう労力を自治体の人にかけて欲しくないと思ってて、そういう労力を復興後の方に捧げて欲しいなと思ってます。

でもう一つが16ページになってます。サテライトオフィス誘致を始めて約10年ぐらい経ってまして、現状で言いますと、先ほどC委員さんも磯焼けのところを気にされたりとかしたんですけど、建設コンサルタントさんがサテライトオフィスにやってきて、藻の再生事業を始める新会社を立ち上げられたりとか、ウェブデザイナーさんがやってきて、ゲストハウスを立ち上げられたり、たくさんのおこが起きてます。で、事業が広がる。サテライトオフィスさんの企業さんの事業が県南で広がる中で、雇用地元の人材を採用したいなっていうのがすごくあるんですけど、そこもすごく人手不足になってます。状況がかなり変わりつつある中で、この16ページの(1)の■(四角)、上から4番ですね、のころの目標というか、方向性っていうのが10年前からあまり変わってないのかなというのが現状だと思ってます。次のフェーズで行くべきだと思うので、もう少し具体的に方向性示していただけるととてもありがたいなと思ってます。以上です。

[地域創生防災部]

まず、避難のあとの動きといったことで、重要な観点だと思います。能登の支援については、例えば避難所運営チームというものがすでに第8陣までが避難所運営に、徳島県の職員が輪島市の避難所の支援に行っております。また、海陽町の職員さんだったり、阿南市の職員さんだったり、実はうちの地域創生防災部の職員も一人行っている状況で、そういった実地を含めて今後それをどう徳島モデルにアレンジしていくのが大事なことだと思います。また、明日からB委員も支援に行かれますので、そういった情報をしっかり集めながら、徳島モデルにどう反映していくか検討してまいりたいと思います。

次に、サテライトオフィスの話でございます。サテライトオフィスの誘致は非常に重要なことであり、一方でずっとこちらで居ていただきたい。こちらで地に足をつけてやっていただきたいという思いもあります。そのため、地域も含めて一体的に支援していく必要があるんだよと、今回、新たに書かせていただいたつもりでおるんですが、また、実務を踏まえながら個別に方向性をご相談させていただき、反映できるものは反映させてまいります。

[副局長]

では、A委員お願いいたします。

[A委員]

Aと申します。先ほどLさんの方から御紹介いただきました、2月17日の生物多様性フォーラムをですね、阿南市と徳島県が共催で行う、とても重要な会議になると思いますので、ぜひ御参加いただける方、お願いできればと思います。私は今、生物多様性に関わっておりますので、その視点から御意見させていただきたいと思います。南部圏域はですね、やはりその海・山・川が揃った自然環境と、それと地域に引き継がれた歴史や文化があって、それがどこにも負けない地域資源であると思います。その地域資源は、人が関わることによって、豊かに維持されてきたという経緯があります。今、急激なやっぱり人口減少で、それらが維持できなくなっているという課題があります。だから、豊かに見えている自然環境なんですけど、実は劣化が進んでいて、その劣化によって、生業だとか、文化が維持できなくなったりだとか、本来の自然の循環機能が失われたりだとか、山であれば水源涵養の機能が失われたりだとか、もう皆さん十分御存知のことだと思いますが、そういう現象が起こっています。で、私はその阿南市のプロジェクトの中で、「イシマササユリ保全の会」の事務局もしております。伊島のササユリっていうのは、代表的な一つのその事例なんですけども、里山の生き物であるササユリっていうのが、全滅、全国的に絶滅の危機にあって、徳島県ではほとんど伊島でしかもう見られないと言われていています。そういった自然環境を豊かに再生、あるいは維持するためには、やっぱり新たな人の関わりを創出していかなきゃいけないと。で、私、今年度、四国の右下観光局さんと一緒に「右下サステナブルツアー」の創成事業に関わらせていただきました。それで、伊島で初めてインバウンドツアーの受入れのお手伝いをしたんですけども、とても手応えがある事業でした。右下観光局さんのおかげで、地域の自然や文化や資源が価値あるものと改めて再認識できたと同時に、そういった自然資源を商品化するためには、継続的に地域を手入れしていかなきゃいけないということ、地域のガイドの方々の必要性和、プラスやっぱり地域と地域をつなぐ、地域と外部をつなぐ、コーディネーションの機能がとても大事だなと感じました。で、先ほどから皆さん議論の中で出ているかと思うんですけども、やっぱりこの南部圏域の自然資源をですね、うまく組み合わせる、それを外部とつないでいくっていう風な作業を担っていく機能をですね、ぜひこの南部圏域で総合的に取り組んでいければなというふうに思います。で、そうしてやっぱりこの豊かに見えるですね、自然資源をですね、実は劣化が進んでいるとみんなが認識して、それに対して、どうアプローチするかっていうのを、ぜひ考えていければなというところです。以上です。ありがとうございました。

[保健福祉環境部]

御意見、ご提案ありがとうございます。自然環境の保全についてでございます。ただいま委員からお話もありましたとおり、阿南市伊島のイシマササユリの他ですね、県南部におきましては、大浜海岸のアカウミガメの保護・監視、また、竹ヶ島でのエダミドリイシの保護など、様々な取組が行われております。この保全というのは牟岐の千年サンゴもこれに当たるかなと思っております。千年サンゴですね、食害が懸念されてはいたけれども、もう10年以上になるのかなと思いますけれども、ずっとNPOでありますとか、漁協の協力を得まして、駆除活動を継続して、一応、それなりの保全が図られているのかなと思っております。我々もそうですけれども、いろんな方の協力を得て、この自然環境を継続・維持して、次代に引き継がなければならないというふうに思っておりますので、引き続き御協力よろしくお願いたします。

[地域創生防災部]

自然環境を生かした観光誘客といった観点でですね、御協力をどうもありがとうございます。自然

環境を生かした観光についてのキーワードはオーバーツーリズムなのかなと思っております。貴重な自然環境がオーバーツーリズムによって荒らされることがないように、南部圏域としてオーバーツーリズムを防ぎながら、どのように観光誘客を進めていくのか、注意しながら進めてまいりたいと思います。

[副局長]

では、続きまして、管内各市町の皆様から御発言をお願いしたいと思います。時間がかかなりオーバーしております、申し訳ございませんけれども、簡潔に言うようお願いしたいと思います。

では、ウェブでご参加の西田阿南市副市長様お願いいたします。

[阿南市 西田副市長]

ウェブで失礼致します。阿南市の西田でございます。委員の皆様方には、県南の市町の活性化に何かとご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、先程から出ております、一番先に阿南のB委員さんから避難場所における空調の整備についての御意見がございました。現在、本市においては、発災時の避難場所における環境の整備に向けた取組として、ソフト面では食料や飲料水等の備蓄を計画的に進めているところでございます。また、ハード面に対しましては、避難所内における室内環境等の質の向上も課題となっております。特に避難所として指定されている屋内体育施設については、近年の地球温暖化による気温の上昇などを考慮いたしますと、平時から熱中症対策として空調設備の計画的な整備の検討が必要となってくることから、その整備手法等について調査研究を進め、市民の命を守ることを最優先にフェーズフリーの視点を取り入れた防災減災対策に取り組み、災害に強い安全で安心な街づくりを進めてまいりたいと考えております。なお、先ほど阿南のP委員さんからの御提言をいただきました室内体育施設におけるトイレの洋式化については、今後の検討課題としてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

[副局長]

はい、ありがとうございます。続きまして、新居那賀町副町長様お願いいたします。

[那賀町 新居副町長]

那賀町副町長の新居です。よろしく申し上げます。私の方からは那賀町において3月末に那賀町の総合体育館が完成する運びになります。今後、利用促進を図らなければなりません、また防災等でも活用されたいと思っております。一応今度新しくできる体育館には、空調設備を整備することにしておりますので、そういった面でも利用の促進を図っていきたいと思っております。と、皆さんのところにはないと思うんですが、那賀町においては、これから人不足というか人材育成ってところが非常に大事なことでないかとつくづく感じておりまして、今後、博報堂さんとか、そういったところの御意見もいただきながら、人材育成をやっていきたいと思っておりますので、皆さんの力も、なんかいいお知恵がありましたら、御提言いただけたらと思っております。

[副局長]

ありがとうございます。続きまして柘富牟岐町長様お願いいたします。

[牟岐町 柘富町長]

柘富でございます。どうぞよろしく申し上げます。着座にて失礼をいたします。C委員さん、また、

P委員さんからもございました。命の道であります8の字ネットワーク、阿南自動車道の早期整備についてお願いを申し上げたいと存じます。先ほど牟岐町は弱いというお言葉もございました。確かに私もそうだと思っております。陸の孤島となっております。牟岐町の北側、美波牟岐間は四国で唯一白地のところでございます。ですので、美波牟岐間の計画段階評価の早期着手のお願いと、牟岐町から南側、牟岐海部間の都市計画決定は済んでおりますので、新規事業化を国の方に対しまして、強力に働きかけていただきたいと思います。また、来月、2月の7日には後藤田知事を筆頭に県下の市町村長で、国土交通省、財務省の方に要望活動をさせていただきますので、今後とものご指導ご支援、また御助言等いただけますよう、切にお願いを申し上げます。牟岐町から以上でございます。

[副局長]

はい、ありがとうございました。引き続きまして磯野美波町副町長様、お願いいたします。

[美波町 磯野副町長]

美波町副町長、磯野と申します。よろしくお願いいいたします。少し美波町の委員さんから質問のあった件で答えられる範囲ですけれども、少々お答えしたいと思います。F委員さんからありました漁業者の、第一次産業の継続ということで、先ほどQ委員さんからもありましたように、サテライトオフィスの関係では新たに磯焼けに対応するための藻藍部、一般社団法人を立ち上げていただいて、そういった取組も実施されるということでございまして、あと農業については赤松地域ではRMOですね、組織を立ち上げ、また林業については広域林業を主軸とした「四国の右下木の会社」っていうようなサポートであったり、一次産業を継続するにはやっぱり民間の力っていうのが非常に不可欠でありますので、その辺は行政としてどういった支援といたしますか、一緒にやっていくことができるかっていうのは一緒に考えてやっていきたいと思っております。H委員からおっしゃられた移住関連については、社会情勢はいろいろ変わってくる中で、変わったところについてはそれに対応するようにまたご指導をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。それからQ委員さんからもありますけれども、避難所のDX化というのは、サテライトオフィスの得意なところかと思っておりますので、それは十分また話し合いをしながら進められればと思っております。最後に、I委員さんからおっしゃられました一時避難所、それから個別避難計画なんですけれども、先般、和歌山の方にうちの職員も一緒に同行させていただいて視察に行ったと聞いております。その中での課題等も職員も持ち帰っておりますので個別避難所計画につきましては、今回の能登半島地震でもありましたけれども、あちらも過疎・高齢化っていうのは非常に進みます。ですから、そういった地域での課題っていうのはこちらにも当てはまるのかなと思っておりますので、十分、関係機関とも連携しながら相談しながら、また自主防災会とも相談しながら、こういった形で個別避難計画をお示しできるのか、前へ進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。それから、一時避難所の件でございますけれども、当初は避難路の確保と、津波避難タワーの建設に力を入れてきましたけれども、今後は避難場所でのそういう避難のあり方っていうのがまた違った面で取組が必要となってくると感じておりますので、これもご相談させていただけたらと思っております。よろしくお願いいいたします。

[副局長]

ありがとうございました続きまして、横海陽町副町長様、お願いいたします。

[海陽町 横副町長]

海陽町副町長の横でございます。海陽町としましては、やはり一番は防災関係、能登半島の地震が一番肝心なところであると考えています。海陽町としましても1月17日からまずはリエゾンとして、職員を派遣させていただいて、28日からまた新たに避難所の運営の支援ということで、職員を派遣して、現在避難所運営に取り組んでいるところでございます。私どもも職員を派遣することによって、今後に生かせるような経験になると思っております。これからもいろいろと問題がでてくると思っております。県の方も一緒に派遣で行っていますので、実際に起こった時に、どのように避難所を運営、被害の状況把握、また物資の提供等、今回の問題点をできるだけ事前に解決できるようにしたいと思っております。海陽町としましても、令和4年3月に事前復興計画を策定しておりますので、実際に災害がおきた時に、災害廃棄物や死体の安置場所の指定等を今現在計画しているところでございますので、実際に起こった時には、海陽町としてできるだけスムーズな取組ができたらと思っております。

次に一次産業におきましては、M委員が言っていた通り、やっぱり喫緊の課題でございまして、待たなしの状況であると思えます。Uターンについて、施設園芸についてはある一定の効果が出ていますが、やはり土地利用型の農地保全に対する農業の担い手が不足しているということで、機械等の設備投資が必要であるということで、海陽町としても、町独自の農業用機械の購入費助成制度等について、検討しているところでございます。県の方には、またお願いすることもあると思えますけど、御協力をお願いしたいと思います。また、今後の街づくりとして、今、海陽町で取り組んでいるのは、今後30年先を見据えたランドデザインのような形で、J委員がおっしゃった通り、今後も、高規格道路が今度できるにあたって、海陽町の街づくりも変わってくるだろうということで、夢物語的なところもあるかもわかりませんが、若い子供たちから今後住み続けたいと思うような街づくりのランドビジョンについて、今職員の中で策定に向けて取り組んでいるところでございます。委員の方々、町の方々の意見もいただくようなこともあろうかと思えますけど、今後とも御協力よろしくお願ひしたいと思います。

[副局長]

ありがとうございました。皆様、本日は長時間にわたり、貴重な御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。本日いただきました皆様方の地域に根ざした貴重な御意見や御提言につきましては新たな徳島県南部圏域振興計画や今後の政策にしっかりと反映させてまいりたいと考えております。次回3月に開催予定の第2回徳島県南部地域政策総合会議で改めて皆さんに修正後の計画案をお示したいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

結びとなりますが、今日いただいた委員の皆様の南部圏域の振興に関する熱い思いを私どももしっかりと受け止めまして、南部総合県民局といたしましては、管内の市町と機密に連携し、南部圏域の目指すべき将来像である安全で住みやすく温かい持続可能な地域の実現に向けまして、皆様と共に圏域一丸となりまして、着実にさまざまな取組を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和5年度第1回徳島県南部地域政策総合会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。